

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における瓜破北小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年4月から令和7年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・瓜破北小学校では、5年生 59名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査を実施する。

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立瓜破北小 学校

児童数

59

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.23	20.04	29.65	46.17	49.65	9.24	141.63	22.00	52.20
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	13.69	18.90	35.87	43.13	43.00	9.75	133.60	12.37	53.86
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

体力合計点は、男子は8項目のうち5項目、全国平均・大阪市平均どちらも上回る結果となった。体力合計点は、全国平均には0.82点届かなかったが、大阪市平均を0.66点上回ることができた。女子も4項目が、全国平均・大阪市平均どちらも上回る結果となった。体力合計点は、全国平均にはわずか0.11点届かなかったが、大阪市平均を1.28点上回ることができた。反復横とびは、男女ともに、全国平均・大阪市平均をかなり上回る結果となった。また、男子の50m走、女子の20mシャトルランは、全国平均・大阪市平均を大きく上回る結果となった。

児童質問紙の「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目に「好き」「やや好き」と肯定的に回答した児童は、男子は91.7%で全国平均・大阪市平均を下回る結果となったが、女子は90.3%で全国平均・大阪市平均を上回る結果となった。1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子は20.8%女子は20%で、男子は全国平均・大阪市平均共に下回っているが、女子は大阪市平均と同値で420分以上の児童の割合が全国平均・大阪市平均を上回った。今後も運動時間を増加させることは課題である。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

体力テストを全学年で実施することで、自分の体力・運動能力に興味を持ち、意欲的に体力向上の意識を高めることができています。体育科の授業では、児童の実態に合わせて活動内容を工夫したり、各学年で「なわとびカード」や「マラソンカード」等、学習内容に合わせたカードを活用したりすることで、児童が自分

のがんばりや課題について認識し、体力向上の意欲が高まる様子が見られた。また、学級ごとの「みんな遊び」を積極的に行い、教師も一緒になって運動場に出て児童と過ごすことで、休み時間は多くの児童が運動場や体育館で身体を動かしている。学校全体として、業間なわとびの期間を設定することにより体力向上の意欲が高まった。

さらに、トップアスリートによる「夢授業」では、6年生は「フットサル」の楽しさや技を学び、サッカーが苦手な児童も楽しく学習でした。5年生は、元全日本ラグビー選手を招き「ラグビー」の授業を実施し、技術面のだけでなく、楽しく取り組み、みんなで協力して応援する学習を味わった。4年生はオリックスの選手による「Tボール」の学習を実施し、児童が楽しく野球に親しむことができた。今後もこれらの取り組みを継続していきたい。そして、質問紙の結果から、朝ご飯を食べずに登校する児童が多いことやテレビやスマートフォンの視聴時間が男女ともに多いという実態と受け止め、減少させたい。